

## 『24歳』

「I.D.」という詞を書いた18の頃は、自分で書き上げておきながら何とも言えないモヤモヤが残った。漠然とした見えない何かに向かって歩いていく背中。頼りねえな、と思った。本当は何かもつと言いたいことがあって、だけど今の自分がことばにできるのはここまでで、曖昧さと、説明できない確信、そういう矛盾もそのままI.D.として胸に貼り付けた。そういう歌だった。



で、2004年3月、タナボタLIVE3の最終日。私は今1番歌いたい曲としてこの「I.D.」を挙げた。今回のツアーのたどり着く先にこの歌が待っているとは、自分でも思ってなかったけど。タナボタLIVE3は私にとってやっと本当の意味での「1stライブ」になったのかもしれない。楽しいなあという気持ちの前に、苦しいなあとか怖いなあとか、色んな前提があつてこそ得られた幸福感。結局何が変わったわけでもなく、私は懲りずに頼りない背中ではぼつねんと歩いているだけだけど、駄目だー、やーめた、ちくしょーを繰り返しながらも、見えない何かに引っ張られている。私が今歌いたいという気持ち以上に、もしかしたらこの曲の方が私をやっと、歌う相手として認めてくれたのかもしれないという気がしてくる。18の頃の自分に実はお見通しだった未来の私は、これからも矛盾と確信を抱えて歩いていくのでしょう。そう感じた23歳最後の夜。

タナボタLIVE3に関わったすべての人に心から、本っ当にありがとう。バンドの素晴らしさ、スタッフひとりひとりの素晴らしさ、こんな最高のメンバーは他にいません。こんんなに暖かくて、こんんなに腕が良くて、こんんなにかっこいい人たちは他にいません。どうかどうか、また一緒にライブやってちょうだいね。絶対ね。そして参加してくれたお客さま、ありがとうございます。3年も待たせてごめんよー。今回もたくさんパワーをもらいました。参加したかったのにチケットをゲットできなかったという皆さまも含めて、本当にお気持ち嬉しいです。必ずまた会いましょう。

最後のライブでサプライズで誕生日を祝われてしまったのですが、くそつたれ、悔しいぜ。やんなくていいって言ったのによお!あの特大ケーキは、みんなで食べました。おいしかった。ケーキの真ん中でっかく「24歳大好き みんなより」と書かれていましたが、いまいち意味がわからない…。まあいいいや、悪い気はしないぜ。というわけで、ありがたやありがたや～タナボタ万歳!

\* maaya \*